

1 本研修の意義

信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター（学びセンター）と飯田市教育委員会とは、ICTを活用した新たな学びの推進（GIGA スクール構想の実現）に向け、以下に示したように、教職員を対象にオンラインによる「ICT 活用中核教員育成研修」を開催致します。

学びセンターと飯田市教育委員会ははじめ南信地区の複数の教育委員会とは、これまでも ICT 活用に関わって様々な連携を進めてきました。例えば、オンラインによる遠隔でのプログラミングの授業などの先進的な実践にも取り組んできました。新型コロナウイルス感染症対応でこうしたオンライン授業が注目されると共に、児童・生徒に一人1台端末（学習者用端末）を整備する国の GIGA スクール構想も動いておりますが、これら動きにも両方で連携しながら、一早く対応を進めてきております。

元々、中山間地校が多い飯田下伊那地域では、先生方が研修会等に参加する際には長時間学校を空けなくてはならないことも多く、なかなか参加しづらいという実情がありました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多人数が集まる研修の実施が難しくなっています。しかし、オンラインであれば、こうした地理的・環境的制約を乗り越え、先生同士が学び合うことも可能になります。そこで、今回、飯田市及び下伊那の小中学校計 52 校から 70 名の教職員が参加し、Web 会議システム（Zoom）によるオンラインの教員研修を実施することにしました。

互いに離れている各校の先生方や講師をオンラインで結ぶことで、距離を超えて先生方が学び合えます。また、研修会の内容も、休校措置や GIGA スクール構想に対応したプログラムであり、児童・生徒が一人1台端末を活用し、学校でも家庭でも新しい学びに取り組めるようにしていきます。そして本研修により、各校の ICT 活用推進を担う中核教員を育成し、地元長野県の信州大学から専門的な知見を学び、市内全校に広めていこうと考えています。

なお、今回の研修は、学びセンターが受託している文部科学省の遠隔教員研修事業の一環として行われており、その成果は県内のみならず、全国に発信される予定です。50 校を超える学校がオンラインで同時に研修を実施する事例は全国的にみても先駆的な試みであり、新しい教員研修のモデルとしても注目されるでしょう。こうした取り組みにより、コロナ対応のみならず、with コロナ・after コロナ時代の新しい学びを実現させていきます。

2 研修の概要

- 令和2年度内に予定されている学習者用端末1人1台環境を活用し、緊急時においても児童生徒が学校・教師・仲間とのつながりをもちながら取り組める学習活動の展開を目指し、以下2点の到達目標を据え、ICT活用中核教員の育成に取り組みます。

〔目標1〕 緊急時に備えて、Zoom、Meet 等のビデオアプリを用いて、オンラインの学活（健康観察等）ができる

〔目標2〕 G Suite、Classroom 等を用いて、オンラインで課題の作成・配布・回収・評価・返却ができる

- 本研修は、信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センターと飯田市内小中学校、エス・バード、下條村立下條小学校を Web 会議システムにより接続し、遠隔教員研修の形で実施します。飯田市の教職員だけでなく、下伊那の小中学校教職員も研修できる機会になっています。

(1) 全体イメージ



■中核教員研修Ⅰ-①	令和 2年 8月27日（木） 15：30～16：40
■中核教員研修Ⅰ-②	令和 2年 8月28日（金） 15：30～16：40
■中核教員研修Ⅱ	令和 2年10月13日（火） 15：30～16：40
■中核教員研修Ⅲ	令和 2年12月 1日（火） 15：30～16：40

(2) 研修内容 ※研修Ⅰの内容となります。また、内容については変更される場合があります。

研修Ⅰ-①	〔期日〕 8月27日（木） 15：30～16：40
〔研修内容1〕：オンライン授業について	
■家庭と学校のオンライン授業の実際と方法	
■ブレイクアウトと G-Suite を用いたワークショップ（家庭へ示すルールづくり WS）	
〔研修内容2〕：校内研修ファシリテーション	
■校内研修ファシリテーションの方法 ■まとめ	
研修Ⅰ-②	〔期日〕 8月28日（金） 15：30～16：40
〔研修内容1〕：クラスルームの運用と実際	
■クラスルーム上での学習情報の配信，学級経営・学校運営の活用事例	
■クラスルームの運用方法，ルール	
■クラスルームを活用した学級経営・学校運営のデジタルトランスフォーメーション	
■ G-Suite を用いたクラスルーム活用ワークショップ ■まとめ	